第 2 章 北野遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高 17 ～ 18m の台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北 250 m、東西 650 m以上の遺跡である。上福岡駅まで 600 mに位置する利便性のため、昭和 30 年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km 上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965 年の分布調査、1970 年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980 年以来 2017 年 3 月末現在、41 ヶ所で調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各 1 軒、集石土坑群、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。

Ⅱ　北野遺跡第 27 地点

（1）調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より

第 3 図　北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

いては第 8 表を参照。

【遺物】（第 4 図 1・2）1 は半截竹管による集合沈線、貼付文に半截竹管先端による刺突を施す、諸磯 c 式。2 は胎土に微細な金雲母を含む。器面が荒れているのではっきりしないが撚糸文を施文か。縄文時代。

Ⅳ　北野遺跡第 29 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2014 年 10 月 6 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は、遺跡範囲の北部の崖面に近い台地上に位置する。西側の隣接地第 18 地点では縄文時代中期と奈良平安時代の住居跡等が確認されているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014 年 10 月 14・15 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1 ～ 1.5 mのトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ㎝であった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻しを行った。旧石器時代の確認調査は行っていない。土坑は平面形態は長方形状を呈するが全容は不明である。検出部の規模は確認面径（70）× 61 ㎝、底径（57）× 52 ㎝、深さ 21.8 ㎝である。遺物が出土しておらず、遺構ではない可能性もある。

Ⅴ　北野遺跡第 30 地点

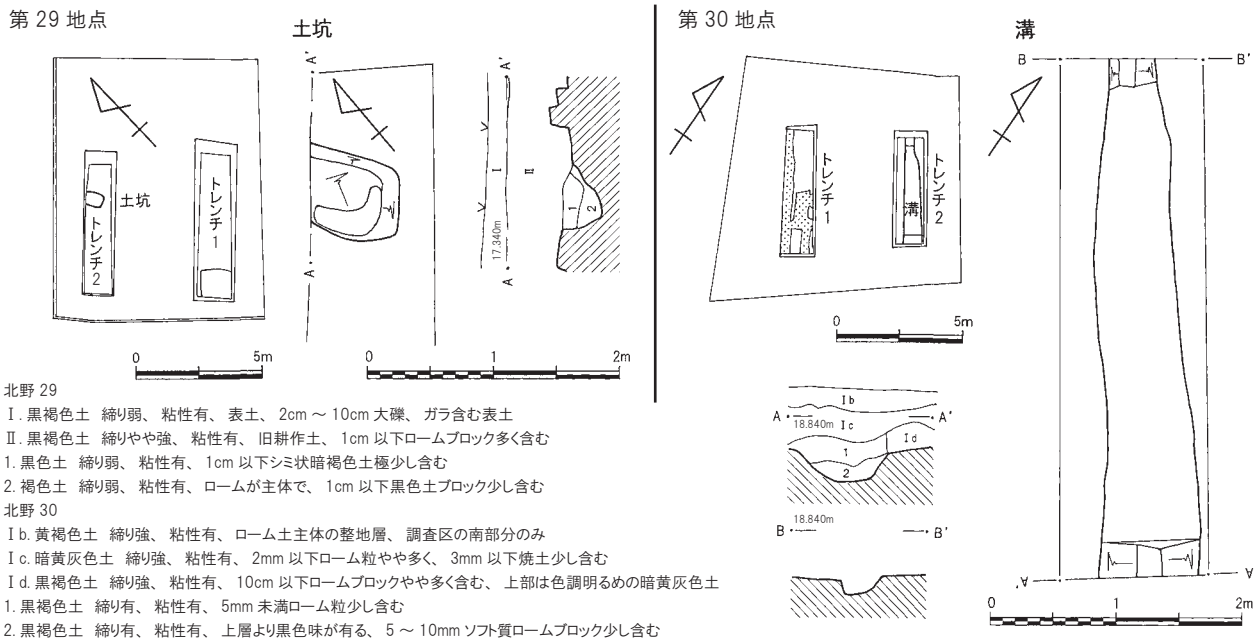
（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2014 年 10 月 16 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は、遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2014 年 10 月 30 日～ 11 月 5 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.3 ～ 1.4 mのトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 40 ㎝であった。トレンチ 2 で近世以降の溝を確認し、一部を検出した。溝の規模は上幅 45 ～ 65 ㎝、下幅 12 ～ 20 ㎝、深さ 40 ㎝である。遺物は出土していない。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻しを行った。



第 5 図　北野遺跡第 29・30 地点遺構配置図 (1/300)、第 29 地点土坑 (1/60)、第 30 地点溝 (1/60)

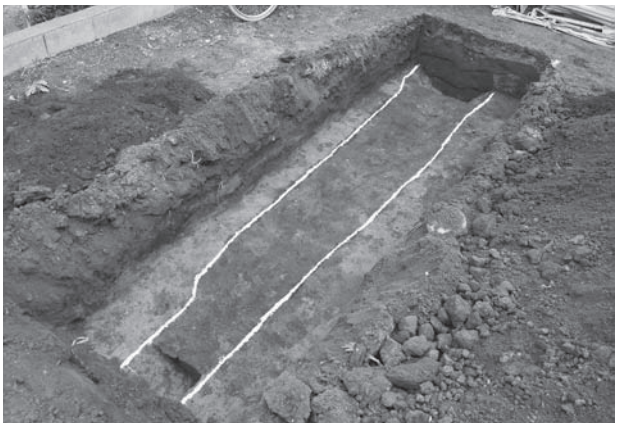
北野遺跡第 29 地点調査風景

北野遺跡第 29 地点調査風景

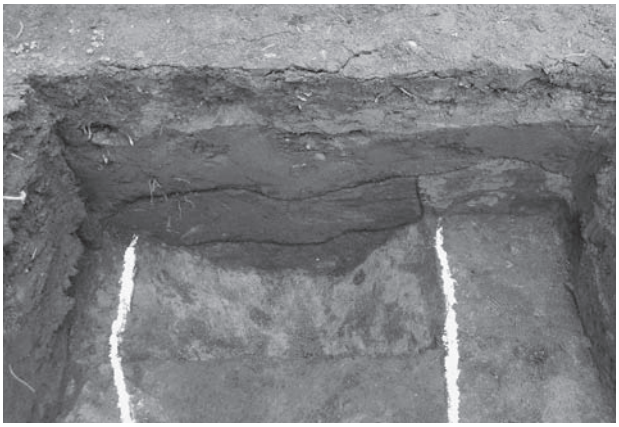
北野遺跡第 29 地点トレンチ 2

北野遺跡第 29 地点土坑

北野遺跡第 30 地点調査風景



北野遺跡第 30 地点溝



北野遺跡第 30 地点溝土層

北野遺跡第 30 地点調査風景